

授業実践の まとめ

小学校特別活動 第4学年

題材名 自分や他の人の体と心を大切にする（全1時間）

1 題材について

本題材は、小学校学習指導要領 特別活動 学級活動(2)ウ「心身ともに健康で安全な生活態度の形成」に基づき、自分と他の人との適切な距離感について学習する題材です。題材を通して、心身の変化が著しい思春期を迎える児童が、自分と他の人との適切な距離感について知ることは、現在及び将来において自分や他の人の体と心を大切にするにつながると考えます。指導に当たっては、自分と他の人との適切な距離感について身の回りで起こりそうな具体的なできごとを基に考える活動を設定することで、自分事として考えることができるようにします。また、自分と他の人との適切な距離感について振り返ることで、これから自分で決めた気を付けたいことを意識して取り組もうとする意欲を育みます。

📌 [「授業デザイン FIRST STEP」](#)

2 題材の目標

- (1) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全といった、自己の生活上の課題の改善に向けて取り組むことの意義を理解するとともに、そのために必要な知識や行動の仕方を身に付けるようにする。
- (2) 自己の生活上の課題に気付き、多様な意見を基に、自らの解決方法を意思決定することができるようにする。
- (3) 自己の生活をよりよくするために、他者と協働して自己の生活上の課題の解決に向けて粘り強く取り組んだり、他者を尊重してよりよい人間関係を形成しようとしたりする態度を養う。

3 題材の評価規準

よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
日常生活への自己の適応に関する諸課題の改善に向けて取り組むことの意義を理解し、よりよい生活を送るための知識や行動の仕方を身に付けている。	日常生活への自己の適応に関する諸課題に気付き、解決方法などについて話し合い、自分に合ったよりよい解決方法を意思決定して実践している。	自己の生活をよりよくするために、見通しをもったり振り返ったりしながら、意欲的に課題解決に取り組み、他者と協力し合ってよりよい人間関係を形成しようとしている。

題材の目標や評価規準の設定については、国立教育政策研究所『[『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料](#)』や佐賀県教育センターWeb『[学習評価の進め方](#)』、[「授業デザイン FIRST STEP」](#)を御参照ください。



4 本時の展開

(1) 本時のねらい

自分や他の人の体と心を大切にするために、一人一人に適切な距離感があることを知ることで、これから気を付けたいことを決め、実践することができるようにする。

(2) 本時の展開 *太字は評価の場面となる学習活動を示しています。

	児童の活動	指導上の留意点	
		T 1 (学級担任)	T 2 (養護教諭)
<p>導入</p> <p>つかむ</p>	<p>1 自分と他の人との距離感について、自分の現状を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・養護教諭の職務の特質や専門性を生かし、本時の授業には養護教諭が参加することを伝える。 ・学級担任から見た友達との関わり方についての児童の現状や様子を振り返り、伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前アンケートの結果を提示し、自分と他の人との距離感について悩んでいる人がいること等、自分たちの現状に着目できるようにする。 ・事前アンケートの結果を用いることで、一人一人が自分の問題として捉えることができるようにする。 ・第4学年の体育科保健領域の学習内容である思春期について、体と心の変化に伴い、悩みや不安が出てくることを確認し、本時の学習につなげることができるようにする。
<p>本時のめあて：自分と他の人とのてきちなきより感について考え、これから気を付けたいことを決めよう！</p>			
<p>展開</p> <p>さぐる</p>	<p>2 自分と他の人との適切な距離感について考える。</p> <p>3 自分と他の人との適切な距離感について知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ロールプレイを基に友達と意見を交流し、自分と他の人との適切な距離感について考えるように促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分と他の人との適切な距離感について考えることができるように、T 1とT 2でロールプレイを行うことで、人によって適切な距離感に違いがあることを気付くことができるようにする。
<p>見つける</p>	<p>4 2つのできごとにおいて、自分と他の人との適切な距離感が守られないときにどうしたらよいか話し合い、共有する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事前アンケートの結果やT 1、T 2の距離感についての説明を踏まえて、自分と他の人との適切な距離感について自分のことを想定しながら話を聞くように伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分と他の人との距離感には、「体の距離感」と「心の距離感」の二つがあることを伝える。 ・「体の距離感」とは、「自分の体は自分のものだから、自分と他の人との適切な距離感自分で決めてよい」ということを説明する。 ・親しくても近すぎて嫌だと思うときは、離れてもよいこと、自分に対する友達の様子が気になるときは、自分と友達の「体の距離感」を見直してみるのが大切であることを説明する。 ・「心の距離感」とは、「自分の気持ちや考え方は自分のものだから、どのような気持ちを持ち、どのような考え方をするかは自分で決めてよい」ということを説明する。 ・説明の際は、掲示物等を活用しながら行う。 <div style="border: 1px solid black; background-color: #e0ffe0; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>⇒ 1:課題に気付き、自分に合ったよりよい解決方法を意思決定するために (pp.4-6)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・事前アンケートの結果を再度伝えることで、自分と他の人との適切な距離感について自分や学級の現状を想定しながら考えたり、友達の意見を聞いたりすることができるようにする。 ・自分が相手の立場になったら、どう思うかを問い掛けることで、相手の気持ちも考えることができるようにする。 ・更に考えを広げることができるようにするために、児童から出なかった考えを養護教諭の考えとして紹介をする。

		<ul style="list-style-type: none"> できごと2「心の距離感」について、まず、個人でワークシートに記入する時間を取り、その後、グループで話し合うように伝える。 グループで出し合った意見を学級全体で共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> できごと1「体の距離感」について児童が考えた意見に触れながら、適当な言葉や行動について板書する。 できごと1「体の距離感」について考えた活動を参考にし、できごと2「心の距離感」について個人で考えるように伝える。 机間指導を行い、ワークシートに記入することができない児童に、板書しているできごと1「体の距離感」のまとめを参考にするように伝えたり、自分だったら何と言われたら納得できると思うか尋ねたりする。 できごと1「体の距離感」とできごと2「心の距離感」の共有した意見から、学級の意見として、自分と他の人との適切な距離感が守られないときの相手へのよりよい伝え方について板書して、まとめる。
<p>終末 決める</p>	<p>5 本時の学習を振り返り、自分と他の人との適切な距離感について考え、これから気を付けたいことを決める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分や他の人の体と心を大切にするために、自分と他の人との適切な距離感について考え、これから気を付けたいことを決め、ワークシートに記入するように伝える。 意思決定したことを意識して、今後、生活してほしいことを伝える。 1か月後に、振り返りを行うことを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> 机間指導を行い、これから気を付けたいことを決めることができない児童に、板書に書かれた2つのできごとの共有した意見やまとめを参考にワークシートに記入するように伝える。また、自分と他の人との適切な距離感について、これまでの自分を振り返り、これから気を付けたいことを決め、ワークシートに記入するように伝える。 困ったり、悩んだりしたときは大人に相談してよいことを伝える。 養護教諭や保健室の役割を伝え、誰でも来室してよいことを伝える。心身の健康について心配なことがあるときや今回の学んだことの実践でうまくいかなかったとき等、養護教諭等に相談してよいことを伝える。

⇒ 2:授業後の保健指導へつなげるために (p.7)

(3) 事後の指導

児童の活動	指導上の留意点	◎目指す児童の姿 【観点】〈評価方法〉
意思決定したこれから気を付けたいことを意識して実践する。	<ul style="list-style-type: none"> 帰りの会などで学級担任から言葉掛けを行い、実践への意識付けとなるようにする。 	◎意思決定したことを実践している。 【思考・判断・表現】 〈観察〉
1か月後に、実践を振り返り、互いに努力したことや工夫したことについて話し合うなどして、これからの実践で参考にできるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> 振り返りシートに記入する時間を設け、学習したことを生かすための意識付けとなるようにする。 振り返りシートの記入から保健指導につなげる。 	◎自分と他の人との適切な距離感について、学んだことを意識し、生かそうとしている。 【主体的態度】 〈観察、振り返りシート〉

☞ 本時の詳細については「[学習指導プラン](#)」を御参照ください。

5 養護教諭がT2として参画するときの本時における指導と評価の実際

1:課題に気付き、自分に合ったよりよい解決方法を意思決定するために

(1) 自分事として状況を想像しやすいと想定されるできごとの提示

できごと1「体の距離感」

展開の「見つける」段階では、児童が、自分と他の人との適切な「体の距離感」が守られないときにどうしたらよいか考えることができるようにしました。そのために、自分事として状況を想像しやすいと想定されるできごと1「体の距離感」を提示し、学級全体で話し合う際には、児童とのやり取りにおいて、養護教諭の職務の特質や専門性を生かした言葉掛けを行いました。

～できごと1「体の距離感」について学級全体で話し合う場面～

○できごと1「体の距離感」

ろうかを歩いていたら、いつも遊んでいる友達が急にかたを組んできました。私は、おどろいて、少しやだなと思いました。これで3回目なので、やめてほしいと思っています。
あなただったら、かたを組んできた友達に何と言いますか。



みなさんだったら、肩を組んできた友達にどのように言いますか？

学級担任



「やめて!」と言います。

児童



先程、自分の体は自分のものだから、他の人との「体の距離感」は自分で決めていいと説明をしましたね。だから、自分の体を大切にするために、自分の気持ちを伝えることができている、いいですね。

養護教諭

そうなんだ!



ただ、「やめて!」と強い言い方になると友達が悲しい気持ちになるかもしれませんね。ほかによい言い方はありそうですか？

「びっくりするから、やめてほしいな」とか…。



なるほど。相手の気持ちになって、やめてほしい理由を付け加えたのですね。それに、優しい言葉遣いになっていていいですね。でも…。それでもやめてくれないときはどうしますか？



先生や家の人に伝えます。



自分だけでは解決できそうにないときは、信頼できる大人や周りの人に相談することも大切なことですね。

学級全体での話し合いのあとに、更に考えを広げることができるようにするために、児童から出なかった考えを養護教諭の考えとして紹介しました。

～できごと1「体の距離感」を基に、更に考えを広げる場面～



先生は「手をつないだり、肩を組んだりするのはちょっと苦手なんだ」と言います。



えっ!そうなのですか?私は、友達とは手をつないだり、肩を組んだりすることは、仲良しという気がして好きなんですけど。



保健室に相談に来る人の中には、人にくっつけられること自体があまり得意ではなくて、距離感について悩んでいる人もいますよ。

そうなんです。周りにもそういう人がいると考えたことはありませんでした。



できごと2「心の距離感」

次に、できごと2「心の距離感」を提示し、児童が、自分と他の人との適切な「心の距離感」が守られないときに、どうしたらよいか考えることができるようにしました。そのために、できごと1「体の距離感」について学級全体で話し合ったことを踏まえて考えるように促しました。個人でワークシートに記入したり、グループで話し合ったりする際には、机間指導を行いました。

そして、グループで出し合った意見を学級全体で共有する児童とのやり取りにおいて、養護教諭の職務の特質や専門性を生かした言葉掛けを行いました。



【グループで意見を出し合っている様子】

～できごと2「心の距離感」について、グループで出し合った意見を基に学級全体で共有する場面～

○できごと2「心の距離感」

いつも遊んでいる友達に「放課後、公園で遊ぼう。」とさそわれました。今日はもともと家で本を読みたいと思っていました。いつもは友達のさそいをゆう先することが多いので、今日は自分の気持ちを大切にしたいと思っています。

あなただったら、さそってきた友達に何と言いますか。



似たような伝え方をしているグループがありますね。どこが似ていると思いますか？



なるほど。自分の気持ちを大切にするために、遊びの誘いを断って、今日は家で本を読みたいという自分の気持ちを伝えることができたんですね。



「ごめんね」という言葉は、「体の距離感」について考えたときに出てきた、相手の気持ちになって考えた言葉ですね。



なるほど。それでは、ほかに気付いたことはありませんか？



これも、相手の気持ちになって考えた言葉ですね。次の約束ができると、相手も嬉しいかもしれませんね。



それでは、これまで「体の距離感」と「心の距離感」について考えてきて、大切だと思ったことに共通しているのは、どのようなことでしょうか？



相手の気持ちを考えながらも、自分の気持ちはちゃんと言う、ということだと思います。

ほとんどのグループの人が「ごめんね」と言っています。

遊びの誘いを断っています。

自分の気持ちを伝えることは大切だけど、相手の気持ちになって考えたら、悪いな…と思って。

遊びの誘いを断られても「ごめんね」って言われたら、ちょっと安心します。

次の遊ぶ約束をしているグループがあります。

遊ぶ約束ができると、すごく嬉しくなります。

養護教諭が職務の特質や専門性を生かして、児童への言葉掛けを行うとともに、本時の学びを振り返って、自分の課題を踏まえ、これから気を付けたいことを決める場面の指導へつなげました。

(2) 自分の課題を踏まえ、これから気を付けたいことを決める場面での言葉掛け

終末の「決める」段階では、本時の学習を振り返り、自分や他の人の体と心を大切にするために、自分と他の人との距離感について考え、これから気を付けたいことを決めるようにしました。

その際、養護教諭が机間指導を行いました。これから気を付けたいことを決めることができない児童や自分の気持ちを大切にしている視点が不足している児童に、児童の発言を生かして、板書やワークシートを振り返りながら、養護教諭の職務の特質や専門性を生かした言葉掛けを行いました。

～これから気を付けたいことを決めることができなかった児童への言葉掛けの場面～

Aさんは、これからどのようなことに気を付けたいと思いましたか？

…。分かりません。

児童A

では、一緒に考えてみましょう。Aさんは今日の授業で、自分と他の人との距離感について考えてみて、「知らなかった!」、「そうなんだ!」と思ったことは、何かありますか？

私は、自分と他の人との距離感について考えたことがなかったので、クラスには悩んでいる人がいると知って、驚きました。

近付いて話されることが苦手だと感じている人がいましたね。

私はいやだと思っていなかったから、今までとても近付いて話していたときがあったかもしれません。

これまでの自分の行動を振り返ることができたんですね。そのことについて、これから気を付けたいことを書いてみてはどうでしょう？

それだったら、書けそうです。

～自分の気持ちを大切にしている視点が不足している児童への言葉掛けの場面～

Bさんは、相手の気持ちについては考えることができているので、自分の気持ちを大切にしている視点についても考えることができるようになってほしいな。

2. 今日の学習を振り返って、自分や他の人の体と心を大切にするために、これから自分が気を付けたいことを決めて、書きましょう。

これからは、相手の気持ちを考えていきたい。

資料1 児童Bのワークシートの記述 [\[ワークシート\]](#)

Bさんは、「相手の気持ちを考えていききたい」と思っているんですね。では、自分の気持ちについてはどうですか？

うーん。

児童B

今日の授業の中でみんなと話し合っているとき、「相手の気持ちを考えながらも、自分の気持ちをちゃんと言う」という意見が出ましたね。

そうか、ぼくは相手の気持ちについては考えていききたいと思っていたけれど、自分の気持ちも大切にすることが大事なんだよね。

そう、自分の気持ちを大切にすることも大事なことです。ときには、理由や自分の思いを相手に伝えて、断ることも自分や他の人の体と心を大切にするために必要なことです。

自分の気持ちを大切にすることについても、ワークシートに書き加えます。

このように、(1)(2)において養護教諭が職務の特質や専門性を生かして児童に関わることで、児童は自分や他の人の体と心を大切にするために、自分と他の人との適切な距離感について考え、これから気を付けたいことを決めることができました。また、養護教諭が児童の実態に応じて職務の特質や専門性を生かした言葉掛けを行うことで、児童は学びを深めることができました。

2:授業後の保健指導へつなげるために

授業後の保健指導へつなげるために、児童の様子等について学級担任と情報交換を行いました。

～授業後～

保健室来室時には、自分と他の人との適切な距離感について相談があったり、ほかの児童に自分と他の人との適切な距離感について伝える様子が見られたりしています。

授業を行ったあと、クラスでは友達同士のトラブルが減ったように思います。以前から友達との距離感がとても近かったため、気になっていたCさんは自分と他の人との距離感を見直すことができたようです。

Cさんは自分で決めた、これから気を付けたいことを実践することができていますね。

ずっと2人だけでくっついて遊んでいたDさんとEさんについてですが……。Dさんは、ほかの友達とも遊びたいという気持ちもあったようで、Eさんの気持ちも考えながら、授業で学習したようにほかの友達とも遊びたいという自分の気持ちを伝えているようです。

Dさんも自分で決めた、これから気を付けたいことを実践することができていますね。

Eさんは、やはりDさんとだけ遊びたいようで、Dさんを独り占めしたいという思いが強いようです。そのため、Dさんと遊んでいる友達にも強い言い方をしてしまったり、ほかの友達とも遊びたいと言ったDさんに怒ったりしてしまうことがありました。

Eさんが保健室来室時に話をしたところ、「自分の行動がよくないと分かっているけど、どうしたらいいか分からない」と言っていました。もしよかったら、もう一度保健室でゆっくり話を聞いてみましょうか。

このように授業後に、支援が必要だと思われる児童を、保健指導へつなげます。また、学級担任や養護教諭、関係職員で連携し、情報共有しながら組織的に対応していく体制を整えます。さらに、専門的な支援が必要な場合は、スクールカウンセラーなどへつなぐことを検討します。

6 授業実践を終えて

今回、小学校学習指導要領 特別活動 学級活動(2)ウ「心身ともに健康で安全な生活態度の形成」に基づき、児童が一人一人に適切な距離感があることを知ることで、自分の体と心を守ることができるようになってほしいという思いから、養護教諭の職務の特質や専門性を生かした授業参画を行いました。

養護教諭がT2として特別活動の授業に参画する際、「指導と評価の一体化」を図るための授業改善について考え、学級担任と綿密に事前の打合せを行うことは、児童のよりよい学びにつながることを感じました。授業中に、養護教諭が把握した児童の学習の様子や授業後に保健室で得た児童の情報等について、T1である学級担任と共有することで、授業後の保健指導へつなげることができると思います。養護教諭の職務の特質や専門性を生かし、保健指導にもつなげていくことで、児童がよりよい学校生活を送ることができるようになって感じました。

今後も児童との関わりの中で得られる情報を的確に把握して、児童の実態に応じた保健教育が実施できるように心掛けていきたいと考えます。その際は、児童が学んだことを実践につなげることができるように「指導と評価の一体化」を意識しながら、養護教諭の職務の特質や専門性の生かし方を考えていきたいと思えます。